

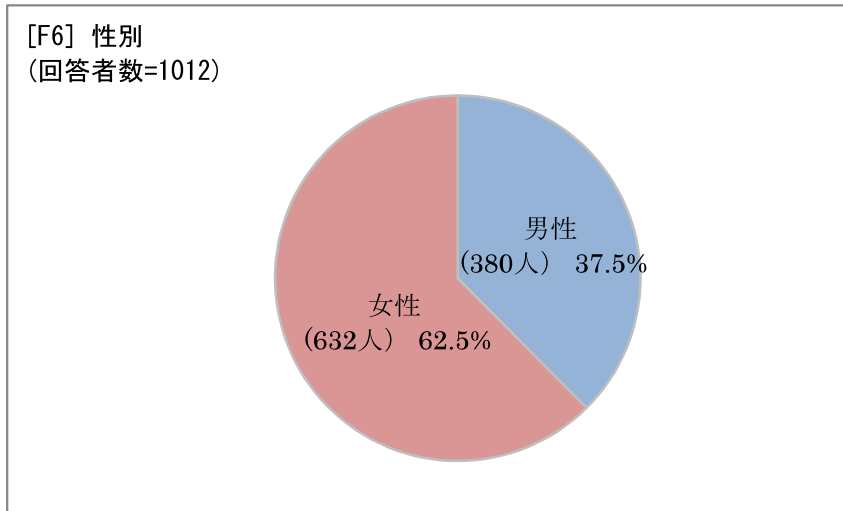
成田市インターネット市政モニター アンケート集計結果

第 91 回のテーマは「災害時の避難行動等に関するアンケート」でした。

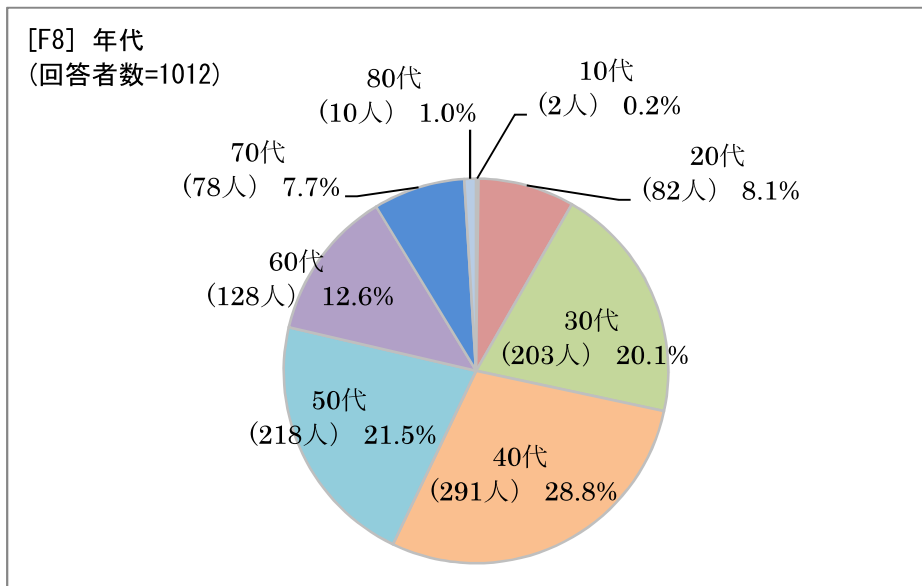
配信者数:1,461 人

実施期間:令和 5 年 8 月 25 日(金)～9 月 4 日(月)

回答者数(回答率):1,012 人(69.27%)

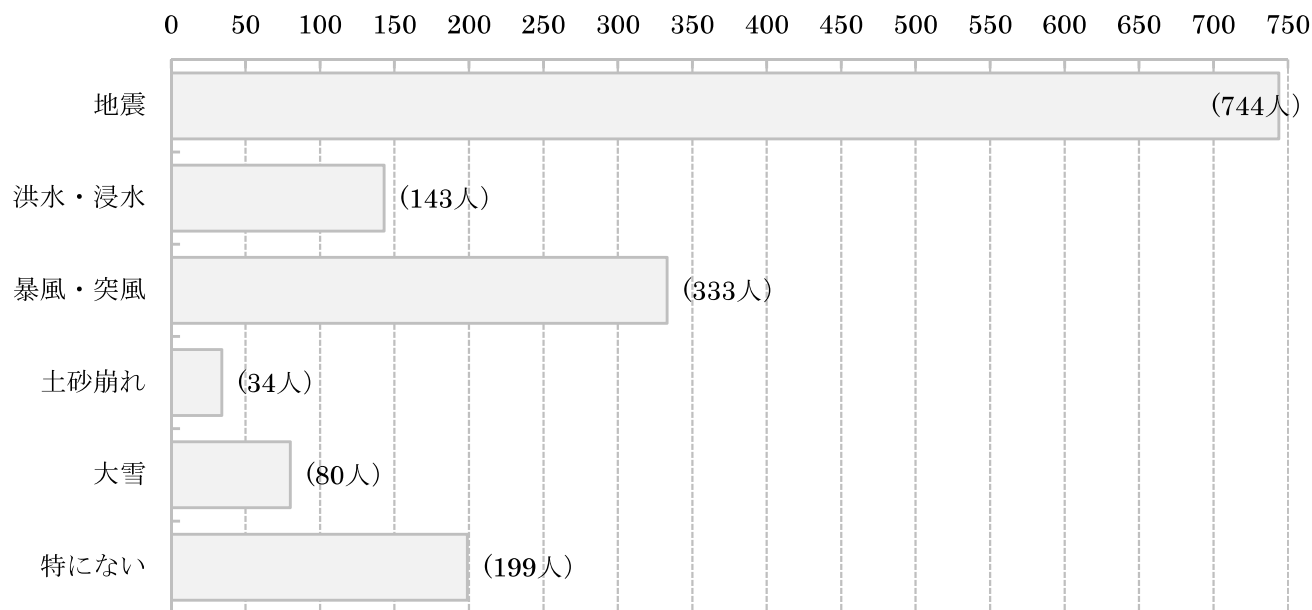


単一回答	人	%
全体	(1012)	
1 男性	380	37.5
2 女性	632	62.5



単一回答	人	%
全体	(1012)	
2 10代	2	0.2
3 20代	82	8.1
4 30代	203	20.1
5 40代	291	28.8
6 50代	218	21.5
7 60代	128	12.6
8 70代	78	7.7
9 80代	10	1.0

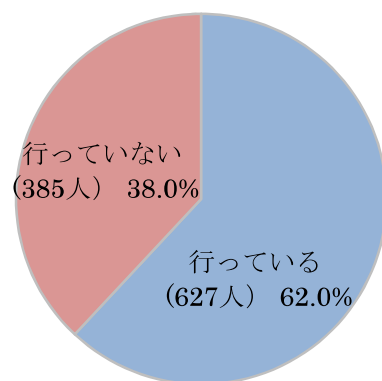
[Q1] 今までに自然災害について恐怖を感じたり、実際に避難した災害はありますか。
(回答者数=1012)



複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 地震	744	73.5
2 洪水・浸水	143	14.1
3 暴風・突風	333	32.9
4 土砂崩れ	34	3.4
5 大雪	80	7.9
6 特にない	199	19.7

○恐怖を感じたり、実際に避難した災害は、最も回答が多いのは地震で、次いで暴風・突風、洪水・浸水の順となりました。

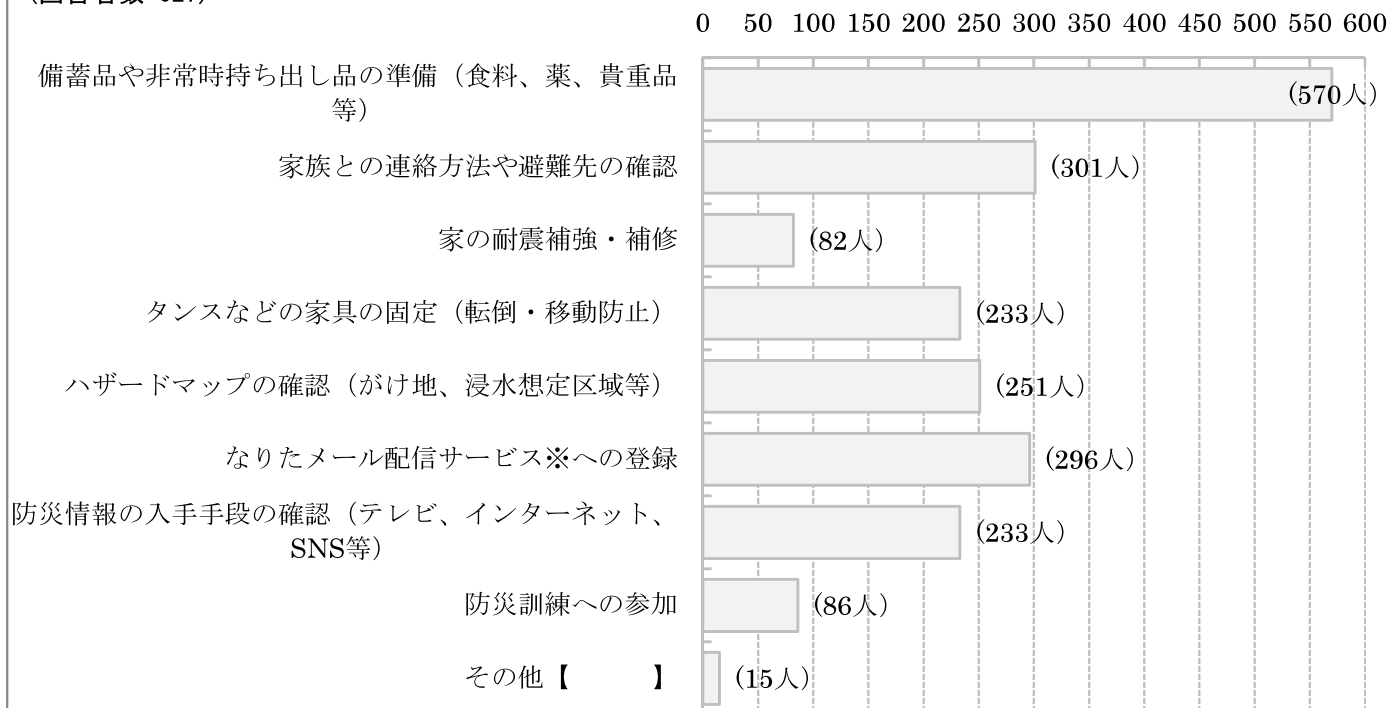
[Q2] 災害発生時は、自身の身の安全を確保することが最優先となります。普段、ご自身で災害に備えて準備などを行っていますか。
(回答者数=1012)



単一回答	人	%
全体	(1012)	
1 行っている	627	62.0
2 行っていない	385	38.0

[Q3] 具体的には、どのようなことをしていますか。

(回答者数=627)



複数回答	人	%
全体	(627)	
1 備蓄品や非常時持ち出し品の準備 (食料、薬、貴重品等)	570	90.9
2 家族との連絡方法や避難先の確認	301	48.0
3 家の耐震補強・補修	82	13.1
4 タンスなどの家具の固定 (転倒・移動防止)	233	37.2
5 ハザードマップの確認 (がけ地、浸水想定区域等)	251	40.0
6 なりたメール配信サービス※への登録	296	47.2
7 防災情報の入手手段の確認 (テレビ、インターネット、SNS等)	233	37.2
8 防災訓練への参加	86	13.7
9 その他【 】	15	2.4

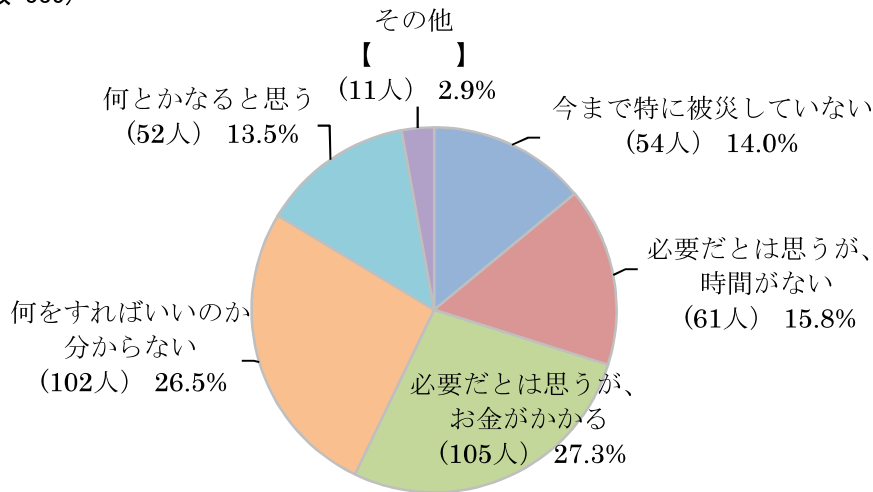
その他

- 非常用電源(発電機等)
- 地域の防災体制の制定と訓練、
- ガソリン満タン 等

○ 回答者のうち 90.9%の方が、備蓄品や非常持ち出し品の準備を行っていることが分かりました。一方で、防災訓練への参加については、低い傾向がみられます。市では、各地区の希望により防災講話等を行っています。こうした機会を活用して、地区と協力し、積極的な参加を呼び掛ける必要があると考えます。

[Q4] 行っていない理由は何ですか。

(回答者数=385)



単一回答	人	%
全体	(385)	
1 今まで特に被災していない	54	14.0
2 必要だとは思うが、時間がない	61	15.8
3 必要だとは思うが、お金がかかる	105	27.3
4 何をすればいいのかわからない	102	26.5
5 何とかなると思う	52	13.5
6 その他【 】	11	2.9

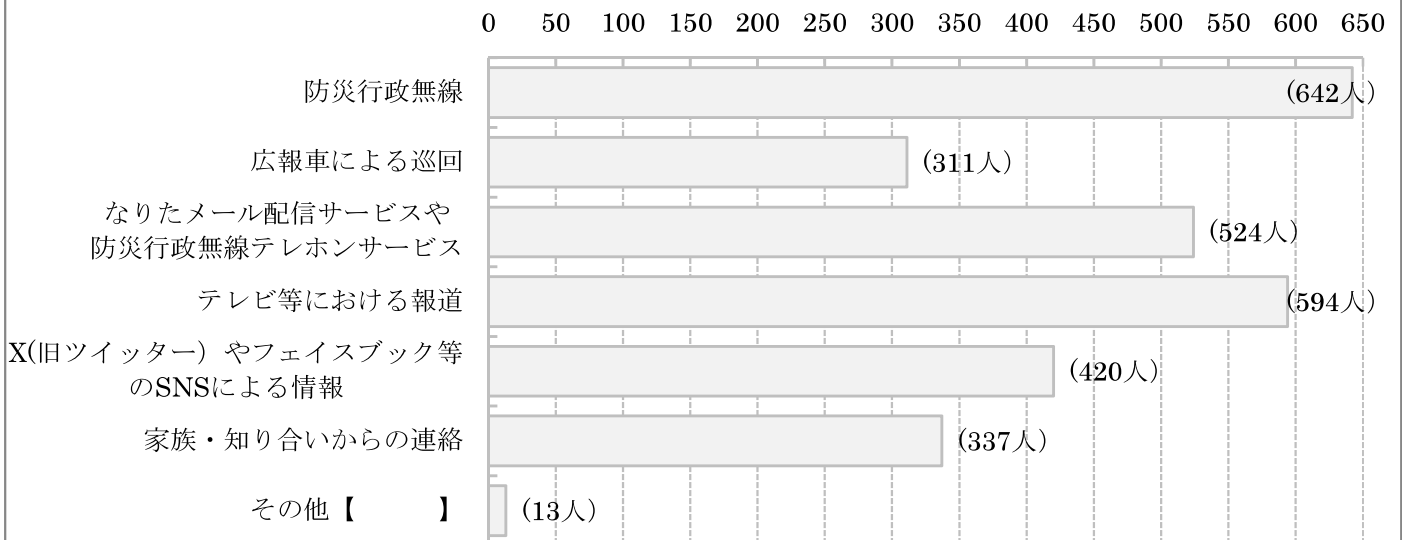
その他

- 必要だとは思うが、期限の確認や見直しなどが面倒くさくて手を出せずにいる
- 呼吸器や酸素等医療機器があるので、自分一人ではどうにもならない
- 3.11の直後は避難セットなど準備していたが最近やってない 等

○「必要だとは思う」を選択された方を合計すると40%を超えることが分かりました。市では今年2月中旬から3月にかけて市内の全世帯へ成田市防災ハザードマップを配布いたしました。各種災害に備えて啓発記事も掲載していることから、内容の確認をお願いします。

[Q5] 災害発生時の情報入手手段として有効と思われるものを選んでください。

(回答者数=1012)



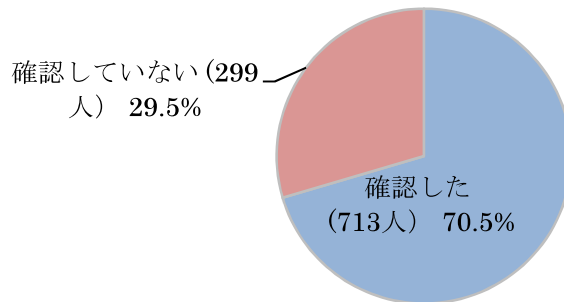
複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 防災行政無線	642	63.4
2 広報車による巡回	311	30.7
3 なりたメール配信サービスや防災行政無線テレホンサービス	524	51.8
4 テレビ等における報道	594	58.7
5 X(旧ツイッター) やフェイスブック等のSNSによる情報	420	41.5
6 家族・知り合いからの連絡	337	33.3
7 その他【 】	13	1.3

その他【 】

- AM ラジオ
- ネット
- ラジオ 等

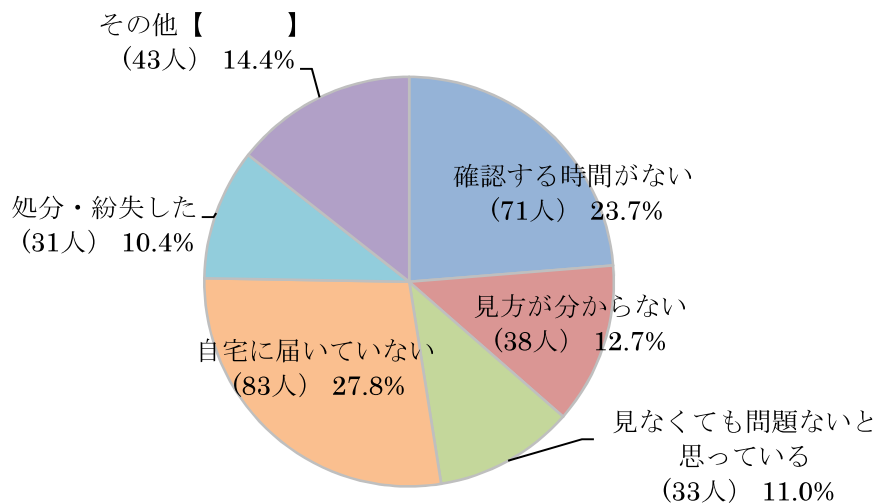
○防災行政無線が 63.4%と回答が一番多く、次いでテレビ等における報道 58.7%であることが分かりました。

[Q6] 成田市では、令和5年2月に防災ハザードマップを作成し、全世帯へ配布を行いました。ハザードマップには、揺れやすさマップや洪水浸水想定区域図など、地域の災害リスクを掲載しています。また、防災に関する様々な情報を盛り込んでおり、いざというときに命を守る一助となるものです。あなたは、防災ハザードマップを確認しましたか。
(回答者数=1012)



単一回答	人	%
全体	(1012)	
1 確認した	713	70.5
2 確認していない	299	29.5

[Q7] 確認していない理由は何ですか。
(回答者数=299)

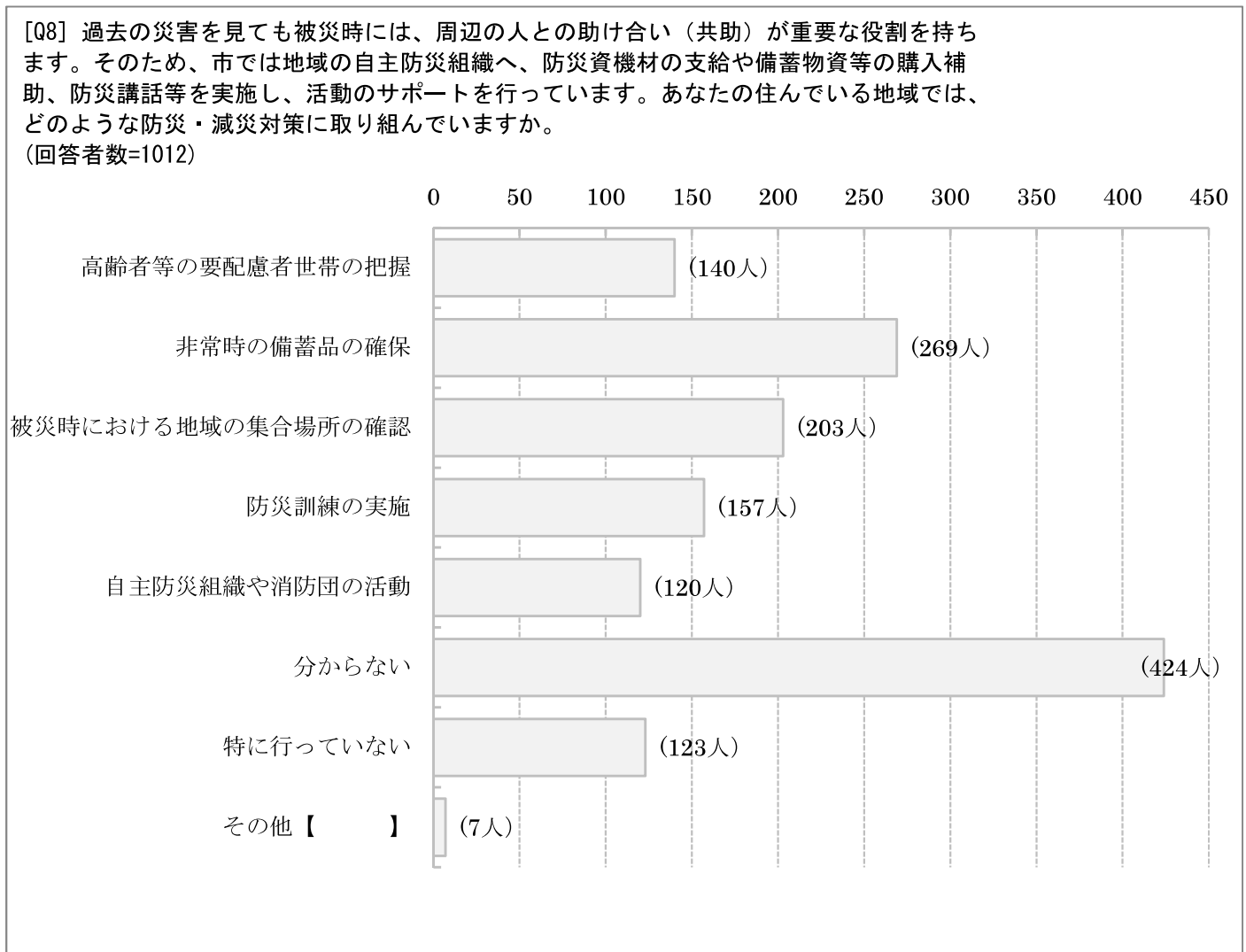


単一回答	人	%
全体	(299)	
1 確認する時間がない	71	23.7
2 見方が分からない	38	12.7
3 見なくても問題ないと思っている	33	11.0
4 自宅に届いていない	83	27.8
5 処分・紛失した	31	10.4
6 その他【 】	43	14.4

その他【 】

- 家族が受け取っているか分からない
- 後で見ようと思ってしまっしまい、見忘れてた
- 自宅に届いていたのかも分からない
- 未開封だが、すぐにも確認できるように手元にある 等

○約 30%の方がハザードマップを確認していないことが分かりました。内訳として「自宅に届いていない」を除くと、「確認する時間がない」の回答が一番多く寄せられました。その他の回答でもあり、すぐにも確認できるようにしておくのは重要なことです。いざというときすぐに取り出せる場所への保管をお願いします。



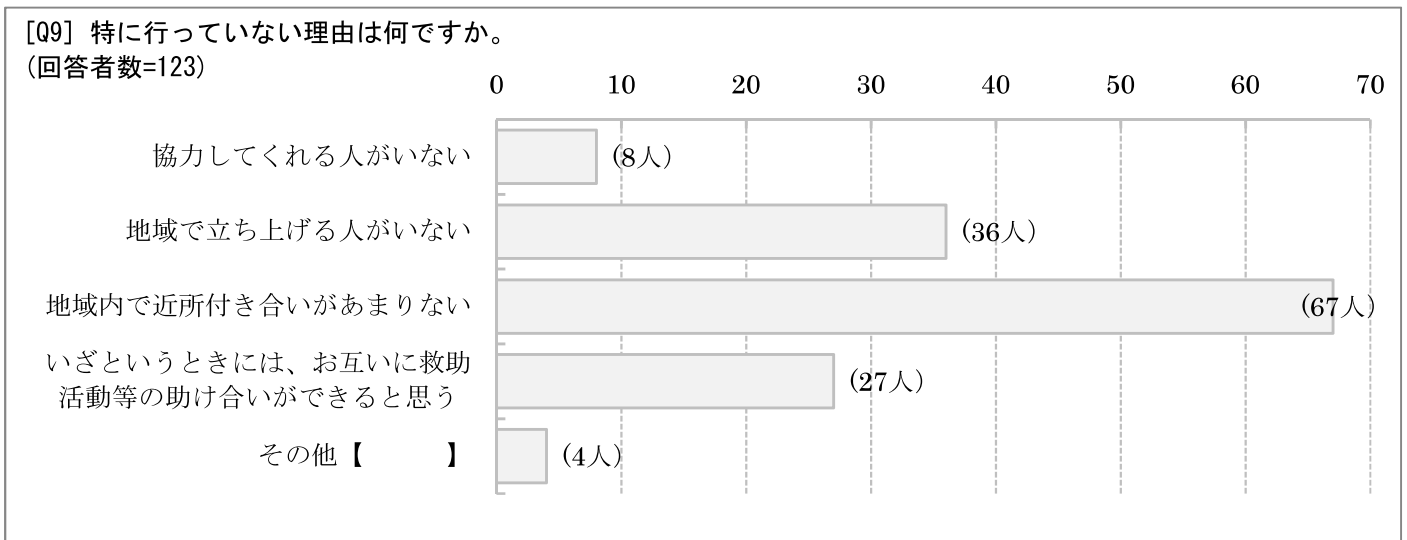
複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 高齢者等の要配慮者世帯の把握	140	13.8
2 非常時の備蓄品の確保	269	26.6
3 被災時における地域の集合場所の確認	203	20.1
4 防災訓練の実施	157	15.5
5 自主防災組織や消防団の活動	120	11.9
6 分からない	424	41.9
7 特に行ってない	123	12.2
8 その他【 】	7	0.7

その他【 】

- 自主防災組織の立ち上げ準備中
- 自治会がないので特に行ってない
- 当マンションは、自治会がないため、市の援助が受けられない。 等

○分からない。または、特に行ってないと回答されているのは 54.1%と過半数を超えていることが分かりました。

阪神淡路大震災等の過去の大災害を振り返ると、地域住民同士の助け合いが命を救ったケースが多いことも明らかになっていることから、近所付き合いがあまりない方々に向けた啓発を検討する必要があります。



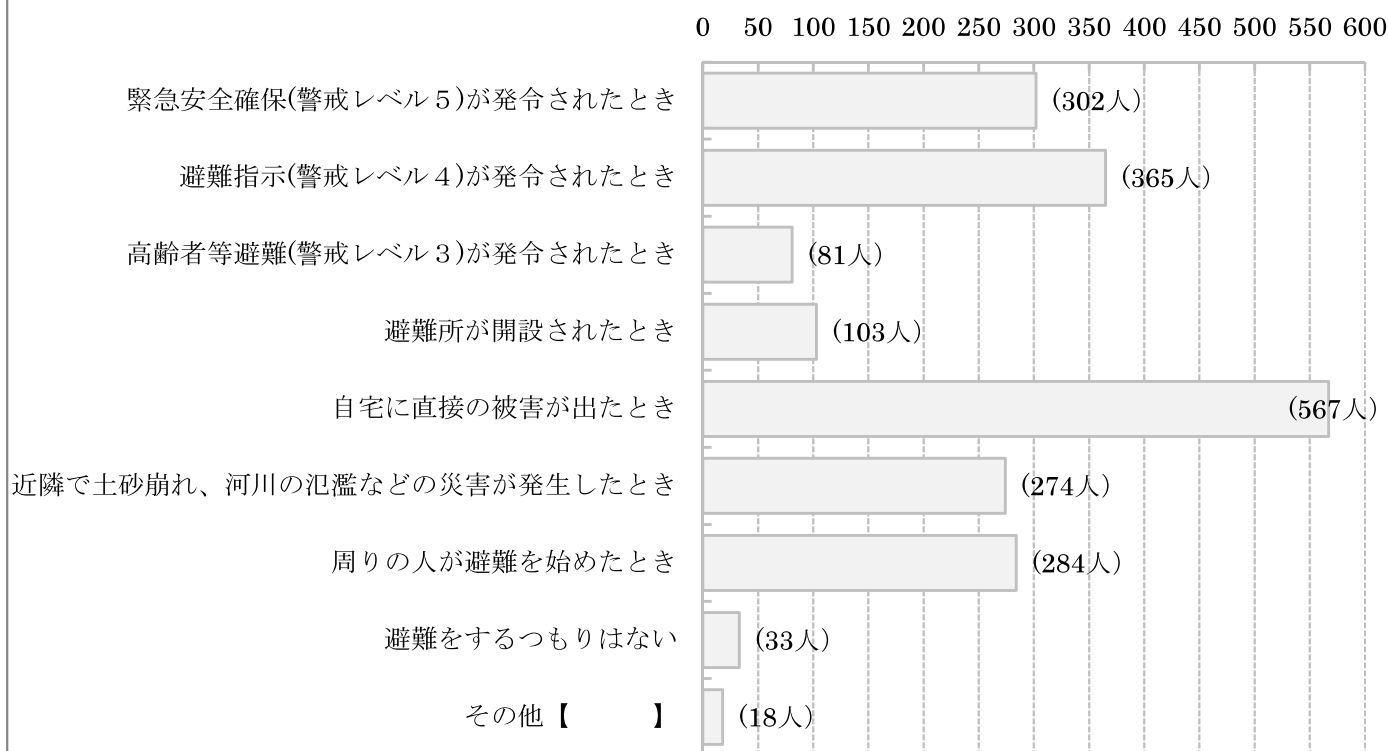
複数回答	人	%
全体	(123)	
1 協力してくれる人がいない	8	6.5
2 地域で立ち上げる人がいない	36	29.3
3 地域内で近所付き合いがあまりない	67	54.5
4 いざというときには、お互いに救助活動等の助け合いができると思う	27	22.0
5 その他【 】	4	3.3

その他【 】

- 回覧板で市からのお知らせは来るけどそれ以外は来ない
- 自治会には地域防災の項目はあるが、実情は殆んど何もなされていない
- 必要性を感じない

○地域内での近所付き合いがあまりないが 54.5%と過半数を占め、次いで地域で立ち上がる人がいないが 29.3%、いざというときには、お互いに救助活動等の助け合いができると思うが 22%。協力してくれる人がいないが 6.5%となりました。

[Q10] あなたは、どのような状況になったら避難を始めますか。
(回答者数=1012)



複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 緊急安全確保(警戒レベル5)が発令されたとき	302	29.8
2 避難指示(警戒レベル4)が発令されたとき	365	36.1
3 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令されたとき	81	8.0
4 避難所が開設されたとき	103	10.2
5 自宅に直接の被害が出たとき	567	56.0
6 近隣で土砂崩れ、河川の氾濫などの災害が発生したとき	274	27.1
7 周りの人が避難を始めたとき	284	28.1
8 避難をするつもりはない	33	3.3
9 その他【 】	18	1.8

その他【 】

- 頼れる人が誰も居ない
- 台風の時は、予報の段階でホテルへ移動する。
- 自宅待機で十分な環境である
- キキクルや民間気象会社の各種情報を的確に把握して、自主的に早めの避難を行う。 等

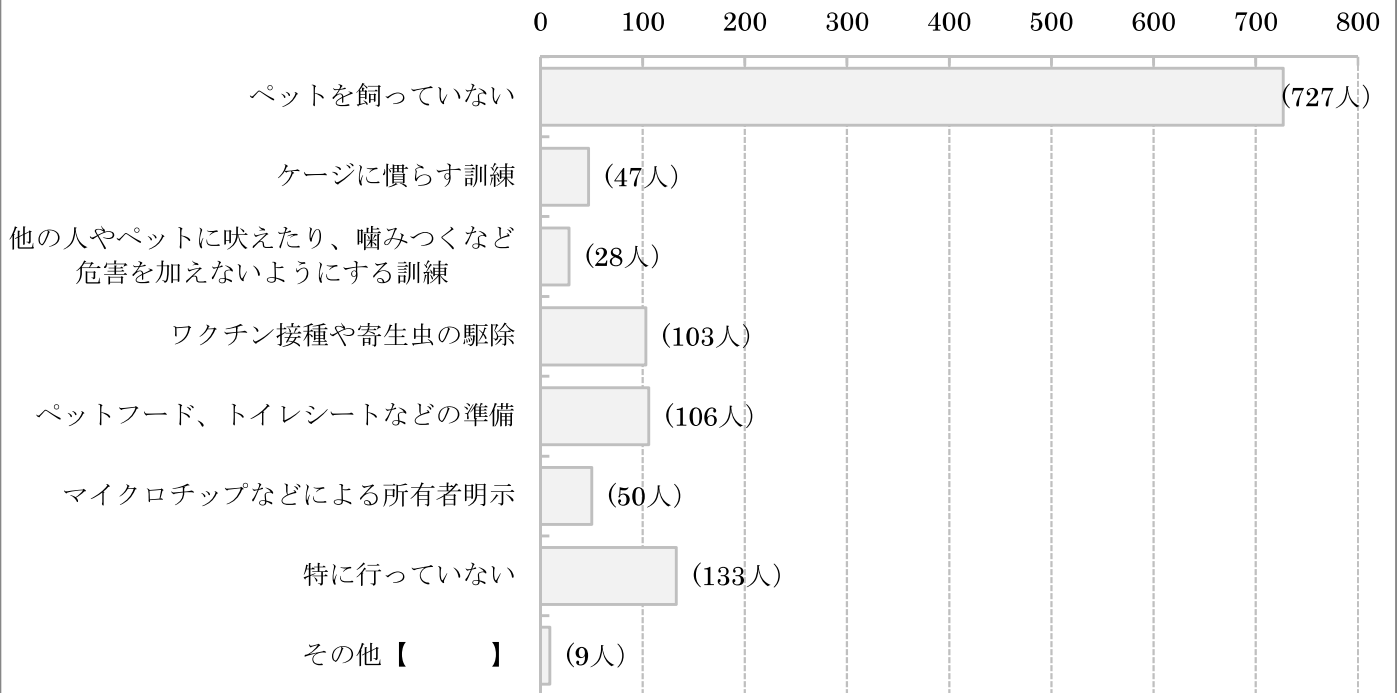
○回答の中で一番多かったのは自宅に直接の被害が出たときで56%でした。また、警戒レベルで見ると警戒レベル4が一番高く36.1%、次いで警戒レベル5が29.8%、警戒レベル3が8%でした。

警戒レベル5が発令された時は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル4の段階で、避難を完了していただくようお願いします。

ただし、避難イコール「避難所へ行く」ことではありません。危険のない人までが避難所へ避難する必要はありません。安全な親戚や知人の家、あるいはホテルなどへ避難する方法や、浸水や土砂災害の恐れが低い場所では在宅避難という方法もあります。避難で重要なことはあくまでも「難」を「避ける」(自らの身を守る)ことです。

[Q11] 避難所では、ペットは人と同じスペースで過ごすのではなく、ペット専用スペースへの避難となります。こうした場合に備えて、どのような準備を行っていますか。

(回答者数=1012)

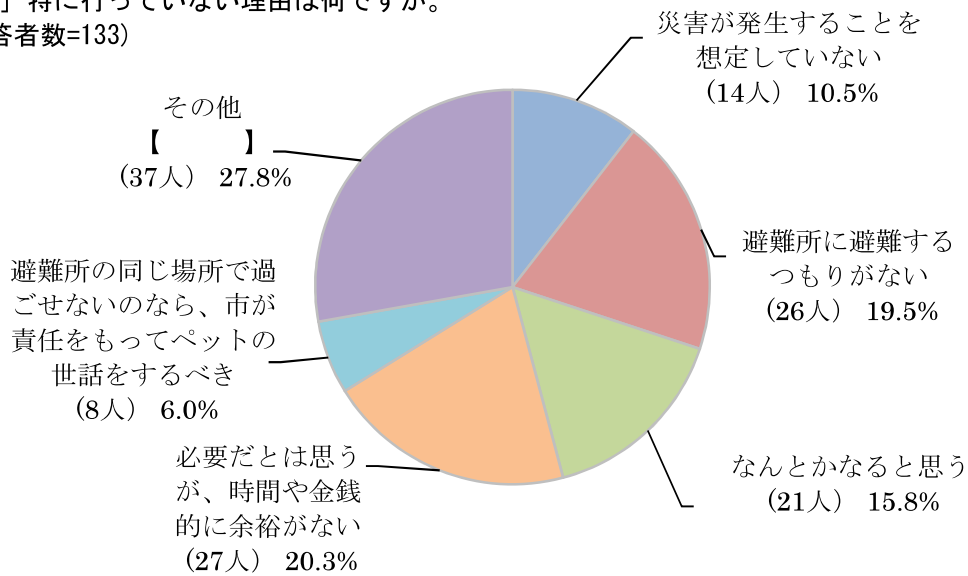


複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 ペットを飼っていない	727	71.8
2 ケージに慣らす訓練	47	4.6
3 他の人やペットに吠えたり、噛みつくなど危害を加えないようにする訓練	28	2.8
4 ワクチン接種や寄生虫の駆除	103	10.2
5 ペットフード、トイレシートなどの準備	106	10.5
6 マイクロチップなどによる所有者明示	50	4.9
7 特に行っていない	133	13.1
8 その他【 】	9	0.9

その他【 】

- 家族なので一緒にいたい。
- 簡易ケージの準備(普段は病院や実家に移動時使用)
- 車中泊できるように準備している。
- 避難の必要がないので一緒に家にいる 等

[Q12] 特に行っていない理由は何ですか。
(回答者数=133)



単一回答	人	%
全体	(133)	
1 災害が発生することを想定していない	14	10.5
2 避難所に避難するつもりがない	26	19.5
3 なんとかなると思う	21	15.8
4 必要だとは思うが、時間や金銭的に余裕がない	27	20.3
5 避難所の同じ場所で過ごせないのなら、市が責任をもってペットの世話をすべき	8	6.0
6 その他【 】	37	27.8

その他【 】

- いつも自由にさせてる猫なので難しいと思うから
- ペット(子犬)を8月末に購入したばかりであるため
- ペットが別の場所に移されると知らなかった
- ペットと一緒に避難所に行くつもりはない。ペットと同じ空間で過ごせるなら考える。
- ペットのことまで想定していなかった。
- 小鳥なので大丈夫と思う
- 人間優先と考えている
- 水槽使用のペットだから

○ペットを飼っていない方を除くと、およそ半分の方々は、ペットの災害に備えた準備は行っていない(285人中133人)ことが分かりました。市でも平常時からの災害に対する備えについて周知を行う必要がありますが、ペットを守ることができるのは、飼い主だけであるため、日ごろからの備えをお願いします。

なお、盲導犬や介助犬などの身体障害者補助犬は身体障害者補助犬法により、避難所では、人と同じスペースでの避難となります。

[Q13] 避難所が開設された場合、避難所の運営は避難された方々にもご協力をいただくこと
になります。円滑に運営を行うためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(回答者数=1012)



複数回答	人	%
全体	(1012)	
1 日ごろからの訓練	371	36.7
2 日ごろからのご近所付き合い	433	42.8
3 地域ごとの役割分担 (避難所運営委員会の設立など)	375	37.1
4 避難所への備蓄品の確保	513	50.7
5 市職員による避難所の運営	338	33.4
6 分からない	72	7.1
7 その他【 】	33	3.3

その他【 】

- 防犯指導員との連携
- 避難所の防犯や犯罪、性犯罪の抑制効果のため、個人へのプライバシーなどの仕切りの確保や男女別にするなどの徹底は重視するべき
- 避難所に集まる住民に向けて具体的な内容が知れたらいい。世帯ごとのスペースなのか、ただ集まるだけの場所になるのか到底溢れ返るだろうと考えられるから、物資の備蓄が何がどのくらいあるのかとか知りたい。
- 避難する全自治会の協力が必要、避難はするが避難所運営委員会への参加はしない等そんな虫のいい話はない。
- 地域ごとに宿泊も兼ねた避難訓練。
- 心理職や防災関連のプロの手を借りて欲しい。
- 女性＝炊き出しといった性別役割分業にしないこと
- 暑い、寒い、まぶしい、暗い、うるさいなど周囲の状況に不満を感じないように、個々に対策をしていただくこと。
- 市内全域での公平な取り扱い(2019年の台風被害の際、旧大栄地区への給水・避難所設置等が、大幅に遅れた。給水は3日遅れ)
- 市職員不要の避難所の運営体制確立

- 市職員をリーダーにした避難民による自主的な活動ができる組織の構築を普段ならしておく
- 市職員をサポートする要員用のビブスや、イラストと外国語が入った看板(サインボード)、文房具や備品がはっきりと分かるように分類されたセット(要員分に仕分けたサコッシュバッグとか)
- 運営者も被災者であることへの理解、お客様気分でないこと
- まずは地域の住民で初動運営が開始できるように基本マニュアルを作成し、現地に備えておくことが大事ではないでしょうか。鍵の開放も含めて初動体制の確立が、まず必要になります。
- ご近所付き合い関係なくどんな人にも平等どんな人も協力が重要
- きちんと状況を把握して指示を出せる能力のある人がいないとまとまらないと思う。
- 防犯(特に女性・子供の安全に配慮)、外国人居住者に対して日頃から災害時の避難行動、避難所など啓蒙する 等

○避難所への備蓄品の確保が 50.7%で、日ごろからの訓練、地域ごとの役割分担、市職員による避難所運営と回答された方が、ほぼ同率でした。

Q8 のアンケートで、地域の活動を行っていない。または、分からない。といった回答が 50%を超えていることを勘案すると、重要とは分かっているものの、日ごろからの訓練等が実施できないといったケースが相当数あり、市職員に対する期待が高まることが想定されます。

Q14本市の災害対策についてのご意見・ご要望をお書きください。

ご意見・ご要望については、市で確認をしておりますが、分量の関係から抜粋して掲載しております。

- 利根川のカメラの配置を増やして増水確認が出来るように夜間照明で良く見えるようにして欲しい。
- 本当の災害時は既存の通信では通信環境が途絶えることが予想されます。現に他県での災害時は不通になることが安易として知ることが出来ます。既存の通信環境に頼らず何処でも繋がるスターリンクの導入を早急に検討すべきです。連絡手段とは命を繋ぐことであり連携や救助も迅速に行うことを目的とすると考えます。
- 避難場所の環境整備(冷暖房、WiFi、非常用電源等)
- 今、話題の公園のベンチが炊き出しになったり、マンホールが仮設のトイレになったりするものが成田市にもありますか？？実際公園は整備が行き届かず草だらけの公園も多いです。まずは整備から行っていただきたいです。
- 防災無線は何か言っているのは判るのですが、何を詳しく言っているのか全く分かりません。市の担当者は各地区を回って調べてほしい。
- 停電時も広報車などが巡回して、どこが停電地区とか知らせて欲しい。東電に連絡しても繋がらないし、東電の連絡先がパンクして、何時間も待たされる。市側で分かる範囲でいいので詳細を防災無線又は車で知らせて欲しい。
- 災害時は、市の職員や OB(市の職員・警察)を中心としたチームを作って欲しい。住民同士では、報道に流れないいざこざがある。成田ニュータウン地区は停電も、断水も、計画停電の対象外になっている。成田の中で格差が生まれている。それを埋める為にもニュータウン中央地域以外の地区に防災倉庫をいくつも作って欲しい。廃校などを前もって避難所として整備しては如何か？
- 普段日中は仕事先にいるので、自宅周辺での避難訓練をしたことがない。成田市は防災意識が低いのではないかな。また、夜間を想定した訓練も聞いたことがない。ハザードマップによる戸別訪問的な説明もない。マップに関しても、知らないだけかもしれないが、9月1日の防災メール内でマップ自体に飛べるようになっていない。更にはこのアンケートの質問内容で何を求めているのか？基本的な、常識的な質問しかされていないのではないかな。
- 自治会の力が弱くなっている今災害時は共助の力は弱いと思います。いざという時のために今ある自治会を災害の要とする政策などが必要ではないかと思えます。
- 地区ごとに講習会や訓練を定期的に行ってほしい。災害時の対応や支援物資の情報提供など円滑に行えるよう対応していただきたい。特に高齢世帯や障害を持った方々への対応を充実してほしい。

- 最近では避難所に行かないのが普通で防災訓練や近所付き合いも無いのが普通なので、その普通に乗り取って考えるべきだと思う。
- 東北の震災における避難所での女性に対する暴行の話、また、不足していたものとして女性の生理用品や女性用下着について支援要請が知り合いを通じてきたほどである。必ず、これらの反省を踏まえ女性目線(女性トイレの前に男性の多くが使用する喫煙所を設けない等)の避難所設置を切望する。災害対策本部に女性を常駐させるなど。そうでなければ、トイレ使用を減らすため水分の摂取を避けたり、夜中は1人でトイレに行かない行動をとりそうである。家族もおらず女性一人で避難してきた方については、特に目配りが必要と考える。
- 避難場所は学校や公民館が多いと思いますが、その他にコミュニケーション施設というか災害が起きた時の為にも使う施設があると便利というか安心だなと思います。
- 避難場所の備蓄情報等が分からない。震災後家が健全であれば避難所へ行くことは避難者の負担を減らすために必要であると思うが、食料、水等の配布が避難所に行かなければ分からない状況だと、避難者との不公平感が出て混乱すると思う。
- いざという時に避難場所が開放されていない、或いは開放が遅れるなどが発生します。市役所の職員や学校関係者の到着を待つことなく地域の責任ある者でも鍵の開放ができると迅速な体制が作れるのではないのでしょうか。マニュアルは作成する事に意義があるのではなく、使えて初めて役立つものです。有効性の高い運用が確保できる体制が必要です。
- 避難が不可能な人達(高齢者、障害者)の把握を、市も地域もしておくのが大切だと思う。取り残されない対策を。
- 大雨の時の防災無線は雨の音で聞こえない事が多いのでメールでの連絡があればとても有意義だと思います。地域新聞やチラシなどポスティングしていただけると登録しやすいと思います。(平日は仕事で市役所や市民会館などへ足を運ぶことが少ないのでポスター掲示より目につきやすい)
- 紙は届いても捨ててしまうので、成田市のLINEや、その他の公式配信サービスを積極的に使って欲しい。災害に特化した成田市ネット配信サービス(プッシュ配信できるもの)を作るとよりよいと思う
- 台風による停電で自家給水ポンプが作動せずに5日間、電気、水のない生活を経験。冷蔵庫も使えずトイレも使えない中、避難所も5日は用意されず、イオンショッピングセンターがありがたかった。入浴は千葉の職場で済ませた。長期に不自由な生活を回避できる行政の支援が欲しい。
- 想像でしかありませんが、リーダー的役割を市の職員にやってもらえるといいと思います。その周りの事を有志、地区の役員などが世話をしていく形で。
- 成田市は比較的災害が少なく、あまり実感が分らない人も多い気がしますので、本当に起こった時に何をしようか分からず、大勢がパニックになる可能性も高いと思います。その際にリーダーとなれる方が地域ごとにご協力いただくと安心です。また防災グッズを市で販売し、いくらかの補助もしていただくと、各家庭に行き届きやすくなると思います。よろしくをお願いします。
- 成田市は航空機災害の危険度が高いが、これについては具体的に聞いたことがない。どのように取り組んでいるのか。航空燃料は毒性が高く、周辺の被害が拡大する。また、一挙に大量に負傷者が出た場合どのようにするのか。空港からの陸路は非常に制限されており、問題が多いように思われる。
- 成田市のホームページを、簡潔に見やすく工夫して欲しい。市民が知りたいと思われることを、単刀直入に記す。余計なことやすでに記されていた項目を毎回繰り返し書かないなど。
- 助け合いの気持ちはあるが、周りの人との交流が皆無のためいざというときに何もできないのではないかと思う。今のところ体が動くので、避難所等で手伝いは可能である。もし制度があるのなら、成田市で避難所の手伝い係などの登録をしたい。また、そのような制度がなければこれから募集してほしい。市職員が防災訓練を行うときに手伝える人の参加もさせてもらえると登録しやすいです。
- 市のパトロール(主要道路、駅周り、川周り等)を頻繁に行なって危険箇所を周知して欲しい。
- 大雨で小学校に送迎が必要になった際に、小学校側の指示は車で送迎。付近は大渋滞となり、自家用車で送迎指示など災害時に行うべきではないと思います。校長などに対して、災害対策の教育を行ってほしいと思います。

- 低い土地や崖のあるところの整備を安全に確保していただきたい。
- 東日本大震災の際、広報車が来て色々案内してくれた。本当に心強く有り難かった。当時ここ成田市内でさえ、ペットボトルの水や手軽に食べられる食品がスーパーやコンビニから消えた。日頃からの食品、飲料水の備蓄の大切さを痛感。また高齢化の進む地区では自治会単位で相互扶助出来る体制作りが大切だと思う。
- 地域コミュニケーションが大事です。自治会組織を活用したいです。それには自治会との共助はもちろんの事、成田市との公助が大切だと思います。
- ハザードマップに大雨の時に水が溜まりやすい場所道路などが書いてあると便利だと思います
- 大雨の際、リアルタイムで、「どこの道路でどのくらい冠水」という情報が欲しいです。FM 成田が巡回を行っていた記憶があります。
- 市役所内の危機管理課が何をやっていて、地域の防災会との情報連絡経路について誰がそれを行っているかを地域の全員に徹底するための活動が見えていないので、災害発生時に地域の住民の誘導の方向が分からないままになっていて、不安がある。
- 災害時の備蓄食品等の保管場所、貰う為の手続きはどうなっているのか知りたい。
- 災害時の水の確保やトイレなどが不安なので対策をお願いしたいです。
- 災害時に必要な電気などライフライン確保のための蓄電池などの助成なども積極的に行ってほしい。避難だけでなく、孤立した場合のサバイバル法なども知りたい。
- 家の中に取り付けられるスピーカーみたいなものが各家庭に設置されると何かあった時に良いと思う。
- 高齢化が進み且地元消防団の人員不足等を考えると、災害発生時に自助を踏まえたうえで共助に踏み込める人がどのくらいいるか心配です。動ける高齢者の一人として自主防災組織を組織すべく検討中です。また、介護保険課の指導の下、高齢者の居場所づくりを進める中で地域の高齢者の現状把握に努めています。避難行動計画の早急な取りまとめを期待します。(洪水危険地域であるため)
- 行政が住民避難の実施主体になることは不可能です。住民主体の対策啓発をお願いします。災害時は自助と互助(共助)が機能しなければ公助はパンクして本当の要援護者を救えません。
- 各避難所でのシミュレーションやルールを事前に決める事で、個々に必要な物事もリアル化したいと思います。また、移動範囲の少ない小中学生の力も頼ることで、関心を持ち持続的な運営に繋がるとおもいます。事前に備蓄の内容を公開すること、搬入や配布方法など公開することが、トラブルを回避したいと思います。
- 改めて地域での避難所の運営など不安材料を知った。自治会から各家庭に周知をして欲しいと思った。
- 医療重度支援者の避難先を検討して欲しい。搬送手段も含め。
- 以前避難する際、近所の方が誤情報を流しておりました。その方は若干、痴呆がありました。その情報が拡散されていて避難が遅くなりました。悪い方ではありません。誤情報対策考える必要があります。
- ペットは家族なのでずっとそばに居たい。特に高齢でいつ急変してもおかしくないのも最後まで一緒に居たい。ペット同伴スペースが欲しい。
- ペットのいる家族の避難方法の説明会を実施してほしいです。
- ハザードマップにある危険な市域で具体的にどのような対策を行なっているか、知らせてください。
- 1 避難所に避難者全員は収容できないことは明白なことなので、安易に避難することを強調しないでほしい。在宅避難対策を進めてもらいたい。支援物資の要望と配布の方法やマニュアルが決まっていないのではないかと。
2 地震時は全員避難ではなく、自宅が危険又は自宅が損壊して居られないという人だけ避難するという考えを基本にして、何となく不安だからあるいは断水だから避難所に行こうという人は避難しないように呼びかけ、避難所対応の労力を減らし、避難所よりも道路啓開、交通網の確保を最優先にしたほうが、社会全体の被害を少なくできると考えます。避難所においては、助けてもらうのが当然といろいろ要求したくなるのが人間の心理ではないでしょうか。 等